

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ「子どもの肥満と生活習慣病」
- 2 対象 保護者、教職員
- 3 専門医 池田 博行 医師
(池田小児科クリニック)
- 4 実施月 7月
- 5 内容(キーワード)
子どもの肥満は社会全体の問題
障がい者の特殊性
家庭で運動習慣をつくるのが重要
小児メタボリック症候群



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*これまでの指導内容の裏付けになるような情報をいただくことができた。小児の肥満は家庭環境、養育者の関わりが大きく影響する。学校での体育活動の運動量だけでは不十分なので家庭での運動時間の確保、食事管理について引き続き指導していきたい。

②保健教育における校内連携について

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*体育、生活单元等で運動量の確保や学校・家庭で行える軽運動、食事や外食でのメニュー選びの工夫などの学習に活用できる。
*継続して定期的な身体計測を実施していく。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*肥満傾向児を小児期から医療につなげる重要性を学んだ。家庭、学校、医療と連携をしながら子どもの健康づくりに努めていきたい。

〔教科やその他の指導との関連性〕

体育、保健体育、生活单元学習

〔受講者の感想など〕

- 肥満が引き起こす病気が思っていたより多く、とても驚いた。これからも、もっと厳しく脱肥満に取り組みたい。(保護者)
- 血液検査をする機会もあまりなく生活習慣病のリスクが怖いと感じた。ジュースを減らして、水・麦茶などを増やしていきたい。(保護者)
- 肥満について詳しく聞くことができ、病気のリスクを知って、改めて保健指導をしていくことの大切さを知った。講義の内容を出席していない保護者の方にも知らせたいと思った。(教職員)
- 肥満は社会全体の問題という言葉が印象に残った。子どもたちが楽しみながら体を動かせるような習慣をつくっていきたいと感じた。(教職員)

